

財団だより

第124号

2009.12

# 多摩川



篠丸竹の掬い具  
調布市郷土博物館蔵



## 多摩川原橋の富士

南武線の矢野口をおりて駅そばを通る鶴川街道を左、多摩川にかかる多摩川原橋を中程まで渡ったところで後ろを振り返って見ると、真っ白な雪を頂いた正に霊峰の名に相応しい富士山が大きく目に飛び込んでくる。

はやる心を抑え橋を渡りきって左岸の堤を上流に向かって歩を進めると、多摩川を隔て丹沢山塊を抱いた富士を見る事が出来ます。富士の冠雪は十月末から三月始め位の快晴の日の午前中が最高でしょう。

なお対岸の(右岸)にはアカシア通りと云われるニセアカシアの並木が続き、五月頃には白い可愛らしい花を咲かせ甘い香りをただよわせるとの事です。

Photo &amp; Text

遠藤 穎彦 (Hidehiko Endo)  
渋谷区在住

## Contents 目次

- 巻頭言  
お魚に会いたい さかなクン…………… 2
- 特別寄稿  
都市部の川は命の宝庫…………… 3
- 多摩の遺跡調査と保存をもとめて…………… 4
- 多摩川散歩…………… 5
- 「浅川の水の精」歌姫 ソプラノ山口佳子…………… 6
- インフォメ多摩川…………… 7
- 歴史・多摩川…………… 8
- 財団からのお知らせ  
助成研究募集のご案内…………… 9、10

## 巻頭言

### お魚に会いたい



東京海洋大学 客員准教授  
お魚らいふ・コーディネーター  
環境省 地球いきもの応援団

さかなクン

地球温暖化や環境汚染など様々な環境に関する話題が報道を通じて伝わってきます。お魚に会うために、全国各所の漁師さんの船に乗せてもらう機会を頂いて、漁師さんからお話しを伺うと獲れるお魚の種類や旬が変わってきたり、以前には見られるはずのなかつたお魚が獲れたり、また実際にさかなクンが目にする機会も多くありました。こうした現象も環境の変化による影響なのかと考えさせられます。

海域によっては、潜ると海底がかなり汚れてヘドロが溜まっていて底なし沼のような状態になっている所もあります。時々海の環境活動に参加させて頂くことがあります。神奈川県「海をつくる会」では海底清掃を毎年山下公園の氷川丸付近で一般ダイバーの方と一緒に、多い時には100人以上が参加されます。様々なゴミなどが取れます。また東京湾ではアマモやワカメを育てられる活動も行なわれています。海藻は海水中の栄養を吸収して育ちます。大きく成長した海藻をみんなで美味しく頂くのです。

お魚の種類は日本で4000種以上知られています。海で暮らすお魚の種類が多いですが、中には海と川を行き来して暮らすウナギやサケ、アユなどもいます。お魚にはそれぞれ個性があり、ある番組に出演した時、北街道の奥尻島にしか見られない不思議な行動をするホッケの集団が海面近くのプランクトンを食べるためにホッケ柱といわれる大きな柱の形態を作る行動をとるといった内容で大変驚きました。身近なお魚ではボラ。多くのお魚は網にかかるとそのまま獲らえられますが、ボラはジャンプして海に逃げてしまいます。寸前で逃げる力を持つ不思議なお魚です。小さな頃、防波堤から見ていてボラが飛んでる姿をトビウオと見間違えたこともありました。他にも威嚇や求愛の時に鳴くニベやクマノミ。イシダイ、カワハギ、ナマズの仲間ギギなども鳴きます。5cmほどの小さなハオコゼは背にあるのこぎり状の背びれは強い毒をもちます。また保護色で瞬間的に色を変えたり、砂に潜ったりと多彩な行動をもつお魚が実に多いです。

小さい頃は神奈川県綾瀬で育ち、多摩川との思い出は少ないのですが、一昨年流域団体主催でアユの稚魚を定置網で掬いその数を数えて川に戻すといったイベントに参加させて頂いたことがあります。その後上流域から源流域まで案内された時、この川がこんなに緑豊かで大自然に包まれていることを目にして、ここが東京都とは思えない大きな感動でいっぱいでした。綾瀬のそばには相模川があり、小さい頃に家族と一緒に遊びに行った時、転んで川に流されてしまいました。流れが速くてどうにも出来ない。これはダメと思いましたが、幸い近くでアユ釣りをしていた人に助けられました。また田舎の千葉県白浜の川でも、いとことお魚釣りに行って流され、川では2度も怖い思いをしました。川の美しさ、楽しさとともにその怖さを体験した記憶は今でも残っています。

お魚について、がむしゃらに勉強しようとか、覚えなければということではなく、図鑑をととも楽しく見ていて、名前も調べてみると笛を吹いているように見えるからフエフキダイなんだとかいう風に自然に覚えていきました。そして図鑑を見てこのお魚に会ってみたいという気持ちが強くなり、会いたいお魚に会えた時には大きな感動でいっぱいでした。川では獲れたお魚を持ってかえりどうやって飼えばいいのかと考える時、その川の光景を思い出し、水の流れ、深さや温度とか、川底が砂か泥だったのか、どんな水草があったのかなど、水槽で飼う時は出来るだけその環境に近づけていくことに注意を払いました。

海や川の汚れに、人の捨てた様々な物が多くなかなか自然に分解されずいつまでも漂っていたり川岸や入り江に沢山積もってしまいます。それを鳥やお魚が間違えて食べたり飲み込んでしまったり、また釣り針などが体に食い込んでいる光景を見たことがあります。可哀そうになってしまいます。静岡県清水の東海大学海洋博物館では小学生の授業の一環としてミズウオというお魚のおなかを開いて何が出てくるかという授業が行われています。開くと捨てられた様々な物が出てくるという。如何に海が汚れているかが想像できます。次に、目に見えない汚れです。それは水に溶け込んでいる様々な物です。以前は工場廃水による公害病が深刻な社会問題になりましたが、今は海や川の汚れの6,7割が各家庭から出てくる生活廃水が原因といわれています。例えばスプーン1杯の醤油を水に溶かすと600リットルの水で薄めないとお魚が暮らせる水に戻らないと聞いて驚きました。これは風呂桶の水3倍分に相当します。料理にかけがえのないお醤油。作るにも職人さんが沢山の時間と時間をかけられます。だからお醤油一滴も大事にしないと！考えるとスプーン1杯位の汚れは常時日本中の各家庭から絶対出ているだろうと思うと恐ろしくなります。極力ゴミを減らす、刺身醤油など残った時には捨てないで大事にほかに使い廻すなどしてなるべく綺麗に食べる心掛けが必要だと思います。

日本は美味しい水や食べ物が頂けて豊かな自然に恵まれています。それを当たり前と思わず、ありがたいという意識に気付く心が大事だと思います。自然を守るといっても中々ピンとこないと思いますが、本当に美しい自然というものはその光景を実際見てみないと分かりません。小さい頃から川や海、野原で遊んだり、動植物と触れ合い元気一杯に外で遊ぶことで、それらを大事にしようとする心が芽生えてくるのではないかと思います。

豊かな漁場ほど、遠洋まで行かなくても多種多様な魚種が釣れ、見渡すと緑が豊かな大地に囲まれています。山と川は人間の体を通る血液のように大地の栄養を海に運んでくれている、それが根本的なことだと思います。実際各地で船に乗ったり、海や川に行ったりするとそれらがみんな繋がっているんだということを実感します。

小さい頃、今のようにエコという言葉はこんなに浸透していませんでした。環境について真剣な取り組みは今ほど盛んではありませんでした。世界や日本各地で異常気象や自然災害などいろいろなことが起こって、始めて真剣に考え取り組まないといけないようになってきた気がします。家庭でも子供から大人までが家から極力ゴミを出さない、分別しようね、電気を極力消そうねなどといった会話からコミュニケーションがさらに深まり、自然を大事にしようという心が芽生える。そういった良い習慣がどんどん広がっていくことはとても素晴らしいと思います。

さかなクンも皆様と一緒に、環境について考えエコな暮らしを続けていきます！

これからも、何卒宜しくお願いいたします。

## 特別寄稿

# 市民が創る川の文化

横浜市谷本川(鶴見川)・市民活動の紹介



あおばく・川を楽しむ会  
事務局長

渡利 博

### あおばく・川を楽しむ会の設立

鶴見川は源流の町田市小山田から、河口は横浜市鶴見区生麦まで全長42.5kmの一級河川です。流域を多摩川と接し流域全体が人口密集地であり典型的な都市河川といえます。横浜市の北部では谷本川と呼ばれ親しまれてきました。1988年に旧緑区で「柳川掘割物語」(1987年製作 宮崎駿・監督 高畑勲)の自主上映会があり、その実行委員会のメンバーが、谷本川をふるさとの川にしたい・よい自然環境を残したいと「緑区・川を楽しむ会」(1994年分区により青葉区が誕生、名称を「あおばく・川を楽しむ会」に)を結成したのは1989年でした。



### いかだで遊ぼう谷本川の開催へ

メンバーの中心はお母さん方であり、食生活や石鹸運動、酸性雨、大気汚染、ゴミの分別等に強い関心を持ち活動を続けてきた会員が多く、「環境に対して加害者になるのをやめ、自然環境を大切にしよう」という思いを持ち、高いフェンス



や藪で川面が見えない谷本川の水鳥や植物を観察することから始め、自分たちが子供の頃に親しんだ川遊びができないかとの思いが募り、「いかだ遊び」をしようと発展しました。材料には近隣の孟宗竹を手に入れ、夫たちも巻き込み試作品を作り、まだ親水施設もなく、コンクリート護岸を苦労して川面に下りて浮かべたりとの試行錯誤をするなか、1989年に第1回の「いかだ遊び」を田園都市線市ヶ尾陸橋上流の青葉区役所別館脇で開催することができました。翌年には川に下りやすいようにしてくださいと神奈川県に要望し、横浜治水事務所が川面に下りられる親水施設を設置してくれました。7回目からは「あおばく・川を楽しむ会」単独では開催が難しく、鶴見川流域全体の活動団体に呼びかけ、実行委員会の開催となり今年で21回目の開催。すっかり横浜市青葉区の夏の風物詩として定着し、夏休み最初の休日を子どもたちは谷本川の川面で楽しんでいます。

### 活動の広がり充実へ

会員の関心は学習会を重ねるなか、いのち、川・水、緑、生物、環境教育、クリーンアップへと広がり、定例活動として、鶴見川・湧き水の水質調べ、生き物調べ、高水敷の自然植生回復作業をしながら、近隣小中学校への学習支援や流域ウォーキング等多彩な活動をしています。



忘れてならないことは、私たちの活動を支えてくれる国土交通省京浜河川事務所、神奈川県横浜治水事務所、鶴見川流域水協議会やNPO法人鶴見川流域ネットワーク(通称TRネット・代表 岸由二慶応義塾大学教授)の存在です。とりわけTRネットからは新しい知見の提供や活動の協力まで物心両面の支援を受けています。鶴見川流域内の東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・町田市・稲城市が調印した鶴見川流域水マスタープランも私たち活動の支柱となっています。

会員の高齢化が進んでいますが、これからも「来るものは拒まず去る者は追わず」の姿勢で、小さいことでもコツコツと続けていくことを大切にしながら、気負うことなく鶴見川の市民文化を支えていくつもりです。



## 多摩川に学ぶ

### 多摩の遺跡調査と保存をもとめて 多摩考古学研究会の50年



多摩考古学研究会  
世話人、元代表  
くぬぎ 國男

<赤駒を山野に放し捕りかにて多摩の横山徒歩ゆか遣らむ> <多摩川に曝す手作さらさらに何そこの児のここだ愛しき> 前の歌は防人に征でたった夫をおもいやる妻の心、後の歌は多摩川で手際よく布を晒している愛しい娘に寄せるおもいが、1250年の時をへだてて伝わってくる。 古代の多摩を彷彿とさせる万葉の秀歌である。



多摩地方は、東京都の約3分の2を占めて平地と山地が相半ばし、その中を多摩川が流れて遠い昔からの景観がよく保たれてきた。戦後、この広大な緑地を活用したのが1958年に開園された都立多摩自然動物公園であり、その後大学などの移転がつづいた。

東京都への夥しい人口流入は新居住地を必要とし、中央道建設に牽引されたように開発の波が西進した。その好対象になったのが薪炭からガス・電気へ、堆肥から化学肥料への変化で価値が薄れた丘陵地帯であり、多摩地方の大変貌時代がはじまった。

こうした動きに早くから危機感をもったのが、遺跡を掘って原始・古代の歴史を科学的に知ろうとする考古学者や研究者たちで、1960年4月に多摩考古学研究会を結成した。国立音楽大学教授の甲野勇と八王子のシュリーマン井上郷太郎（機業家で教育委員）がそ

の中心で、会員は研究者や小中高校の先生が多く、高校生が発掘活動が盛んだった。

その頃は、現在とちがって遺跡や環境への理解や関心が薄く、声をあげて行動しないと遺跡は未調査のままブルドーザーで削られ消滅した。それは歴史の消滅でもあり、会は調査・研究とともに調査の実現化と保存運動にも取り組まなければならなかった。



中央道用地榎原遺跡発掘に参加した高校生（1965）

例をあげると、1964年の中央道八王子インターチェンジ建設にともなう宇津木向原遺跡の調査である。縄文中期の住居跡19軒、弥生後期末～古墳時代初期の住居跡54軒と方形周溝墓5基などが現れ、初発見の方形周溝墓（大場磐雄調査団長命名）は戦後東京都最大の発見とされているが、当初の調査費は30万円であった。第2の例は同じく八王子市の中田遺跡内に建設された都営中野住宅団地である。



同じ頃建設にともなう調査がはじまった多摩ニュータウン遺跡群と異なり、調査費がまったく組まれていなかった。そのため、甲野教授と会の世話人らが調査実現化運動を起し、自費調査の結果からくも実現して古墳時代後期から奈良・平安時代を主とする住居跡137軒が現れた。そしてこの辺一帯が古代武蔵国多磨郡川口郷であることがほぼ明らかになった。

史跡保存運動としては、1965年に甲野教授が開発破壊に抗議して起した八王子城跡の保存と、1972年に日本歴史考古学会とともに起した武蔵国分寺跡の景観保存運動などがあり、小さな研究会ではあるが毎年誌『多摩考古』の刊行、講演会の開催、各地の古墳めぐりなどをつづけて、来年和田哲世話人代表を中心に創立50周年を迎える。



## 多摩川散歩

古街道が集まる聖蹟桜ヶ丘の不思議  
～万葉時代の東海道と鎌倉街道を追って～



古街道研究家  
歴史古街道団 団長  
宮田 太郎

京王線の鉄橋から見る古代牧の幻想

都心からの勤め帰りの人が、多摩川の中流にある京王線鉄橋を電車で渡るとき、車窓の外に突然広がる美しい多摩丘陵の景色を見て、なぜだかとてもほっとした気分になるという話を昔からよく耳にする。

夕暮れも深くなり、いよいよ丹沢や秩父の山々の向こうに太陽が落ちると同時に、多摩の横山は真っ黒に深く沈んだようなシルエットとして浮かぶ。その手前の多摩川の水面は銀鱗色にきらきらと輝き、双方が重なって織りなされる美しき風景は、遠く万葉時代人も感動して歌に詠んだ景観と同じだということを、暗黙のうちに教えてくれているのかも知れない。

古代の歌に出てくる「眉引き山」や「多摩の横山」の名はまさにその風景を指している。聖蹟桜ヶ丘の「聖蹟」とは、ゴルフ場や聖蹟記念館のある多摩市連光寺向ノ岡付近に鮎漁と兎狩りにお越しになった明治天皇が山の高台で野立をされ、しばし休息を楽しまれたことにちなむ。ここからは武蔵国府や国分寺を目の前に望み、遠くには秩父連山、上・下毛野の山々、日光男体山までが遠望できることは、古代以来のまさに物見と国見のための丘だったといえるだろう。平安時代には朝廷の勅使牧であった「小野牧」が、また中世には鎌倉幕府や小田原北条氏の軍馬飼養場「赤坂駒飼場」があったとも伝えられている。

出現した古代道路と「防人まつり」

今から20年前の1998年のこと、故郷であるこの「聖蹟桜ヶ丘駅（関戸）」からほど近い連光寺向ノ岡の山の上で、開発によって断ち切られた尾根の崖下立って見上げた時に、思わず声をあげて見入ってしまった。

黄色がかった火山灰土が堆積した地層断面の最上部に、くっきりとくぼんだ形の古街道の痕跡が見えたからである。この一帯が間もなく開発でなくなることがわかり、議会での議論を経て2年後に発掘調査が行われた。その結果、伝説の古街道「鎌倉街道早ノ道（早馬や急使が駆け抜けた高速道路のような鎌倉への道）」や、古代の飛鳥時代の終わり頃（600年代後半）に造

られた「推定・古代東海道＝防人（さきもり）の道」の痕跡が見つかったのだった（多摩市打越山遺跡）。

道幅は最大で12Mもあり、一直線に府中に続く様は、まさにヤマ



さきもりまつり

ト政権が飛鳥や奈良から関東にまで計画道路をつなげていたことが判明したことになり、まさに日本版ローマの道といえる貴重な遺跡であったのだ。しかし発掘調査は初めから記録だけ残すという条件だったために消滅し現在はマンションが建っている。

今となっては全国の研究者から古代東海道跡であろうと注目されているだけに実に惜しまれるのである。この遺跡の2キロ南に、防人歌に詠われた家族との別離の丘がある。「防人見返りの峠」と刻んだ標柱を25年間共に研究してきた有志を中心に声を掛け合って高台に立てた。以来、多摩丘陵の歴史古道の存在を知ってもらうために、当時の推定ルートを一一般の参加者と歩くイベントを、市民に開かれた歴史古街道団の主催により毎年1回11月に開催し、5回目を終えたところである。



防人見返り峠

南関東の古街道はなぜか多摩市の聖蹟桜ヶ丘駅付近から放射状に広がっており、約15種類もの古代～中世の歴史古道が乗り越えていく「多摩よこやまの道」の眺望の素晴らしいパノラマ台（防人見返りの峠）は、訪れるものを感動させる絶景の丘である。

1,300年も前の奈良時代に、妻や家族と手（袖）を振りつつ涙で別れた「家族の絆」の記憶を再現するこのイベントでは、実際に希望者が防人や妻や家族、大伴家持、部領使や女官、兵士に扮して歩く。中にはハンカチで目頭を押さえつつ感動される参加者もおられ、しばし古代に遡った体験ができる不思議な祭りとなってきた。

今後はさらには行政界を超えた多くの協力者と共に力を合わせ、「本物の歴史に裏付けされた、多摩らしい地方の祭り」にしていきたいと考えている。



防人と妻

## 私と多摩川

「浅川の水の精」歌姫

ソプラノ山口佳子さん



オペラ作曲家

仙道 作三

今年の3月半ば過ぎ、イタリアで学ぶソプラノの山口佳子さんが国際電話をよこして、「11月1日、地元の八王子市でリサイタルをやることになりました。交響詩「多摩川の流れば絶えずして138」の中で、高尾とか浅川が出る、中流域の楽章を1曲入れたい」と、それならば、「八王子市のだ真ん中を流れている「浅川」のオリジナル曲を作ろうではないか」となった次第である。

そもそも彼女との出会いは、2002年、交響詩「利根川322」の水の精の歌姫を探してコンサートを聴き歩いていた。そこでまだ、東京藝術大学の大学院を修了したばかりの優秀な新人山口佳子さんを見つけ、水の精として利根川流域の一都五県で歌ってもらっていたが、それから間もなくしてイタリアに留学したから、私の歌を歌って貰える機会がなくなり、残念に思っていたので、この一本の国際電話は、とても嬉しかった。私はもう、次の新作オペラ「樋口一葉」の勉強を始めていたが、この仕事を1ヶ月ずらして、すぐさま初めて八王子に行き取材を始めた。私の住む東の松戸から西の八王子までほんとに遠い町で、これまで縁が無かったから何も知らない。インターネットで予備材料を得て取材を始めると、八王子市には歴史が満載していた。当初の「浅川30.1キロメートル」だけでは納まり切れない。そして出来た台本が、バラード「八王子今昔」である。

構成は、万葉集の防人の歌、西行法師の和歌の、『古代・中世編』。明治から昭和の初期まで生糸の生産が盛んだった頃の「機織唄」の再現と、北原白秋が高尾山薬王院で詠んだ歌二首の『近代編』。そして私の作詩で、「昔人が行き交った峠が南浅川の先があり、その浅川の流れば支流を集め我らを癒し、母なる川、多摩川へ流れる」と歌う、『現代編』から成る。

余談だが、利根川や多摩川の交響詩で演奏に加わったパーカッショニストの娘も今は、川崎の多摩川に近いところに住み、私も一年前に出来た孫と時々、多摩川の土手を散歩しながら、自分で作詩・作曲した多摩川のメロディーを思い出し口ずさんでいる。

さて本題にもどろう。私は作曲してから半年振りに八王子へ向かうのである。本番前に、もう一度八王子市全体を眺めようと、まずは高尾山口まで行き、山並みの紅葉と清流を見つめ、八王子まで戻り、浅川の土手を歩き、流れを確かめた。ほんとに清らかな川が、市の真ん中を流れている。河原に銀色に光るススキの群れ風になびく。市民はさぞかし幸せであろう、などと、取材と作詩・作曲していた桜の頃を思いながら会場に向った。

もちろん彼女のリサイタルは、私の曲だけではない。第1部は、日本を代表する歴代の作曲家の歌曲に、第2部では、～イタリアから～と題して、イタリアで知り合った、若き有望なバリトン歌手与那城敬さん、ピアニストの仲田淳也さんを共演者に迎えてのリサイタル。その内容の充実は、大変素晴らしいもので、これだけの密度の濃い演奏会は滅多にあるものではない。

舞台には多摩織の着物を飾り、その素材で作った、うす淡いピンクの着物と、季節に相応しい、銀杏色のほんとに綺麗なドレスを着た、「浅川の水の精」歌姫山口佳子さんは、これからもバラード「八王子」を歌って行きたいと言っている。アンコールに、美空ひばりさんの「川の流れるように」で締めくくり、聴衆を感動の涙に濡らした。これもすっかりとした歌の技術があつてのこと。彼女には、来年の5月に初演する、ひとりオペラ「樋口一葉・恋の歌」の、一葉役になって貰うことになった。



八王子の浅川に遊ぶ ソプラノ山口佳子

## インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の12月から平成22年2月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

### 美しい多摩川フォーラム

- 第2回：多摩川子ども環境シンポジウム開催（12月5日：昭島市）
- 第2回：美しい多摩川フォトコンテスト審査結果発表（2月1日：美しい多摩川フォーラム公式ホームページ上に掲載）
- 第2回：環境セミナー（2月中旬頃予定）
- 第2回：美しい多摩川フォトコンテスト入選作品展 & 桜の札所・淡彩スケッチ原画展（3月9日～14日：青梅市立美術館）

**問合せ** 美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫 地域貢献部内） 担当 宮坂 / 及川  
TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4646 E-mail forum@tama-river.jp <http://www.tama-river.jp>

### 財団法人 世田谷トラストまちづくり

冬のバードウォッチング～二子玉川周辺（1月23日：午前9時30分～11時30分）

**問合せ** 財団法人 世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課  
TEL 03-6407-3311 FAX 03-6407-3319 財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

### GeoWonder 企画 むさしの化石塾

「平成21年度下半期 岸辺の楽校」

テーマ：多摩川の地球の窓を開こう！化石から古環境を学びます。

(1) 1/24 (日) 「200万年前の大地を歩く 昆虫化石採集」 拝島町多摩川左岸水道橋土手付近 13時30分

(2) 2/20 (土) 「日野市連行寺層 140万年前の浅海貝化石採集会」

多摩モノレール芝崎体育館駅改札集合 13時

(3) 3/27 (土) 「250万年前の植物・昆虫化石」

清川町中央高速高架下北浅川左岸土手上 13時30分集合

日程と場所は天気の状態により変更します。詳細は化石塾直又は化石塾ブログ最新情報でご確認下さい

持ち物 軍手 発掘道具（ハンマー・タガネなど）

雨天時は、むさしの化石塾事務所「化石の館」で室内作業に切り替えます。

はじめての一般参加は、資料代込1000円です。

塾生及び会員参加は月謝代に含まれますので無料です。

**申込問合せ** むさしの化石塾事務所「化石の館」（雨天時室内作業現場） 担当：福嶋まで

FAX：042-567-1095 携帯：090-1769-8020 Web 申込 E-mail：geo@extra.ocn.ne.jp

## 歴史・多摩川

### 多摩川の柳に思う

国土交通省  
関東地方整備局 京浜河川事務所  
所長 元永 秀

「樹齢30年柳大木台風に泣く」台風18号が過ぎ去った翌日、新聞にこんな記事が掲載されました。

この柳は、狛江市の多摩川河川敷に自生していたもので樹高は25mを越えていました。2年ぶりに上陸した台風18号は10月7日知多半島に上陸、関東地方の西部を抜け、東北・北海道方面へ進み、各地に大きな被害をもたらしました。

京浜河川事務所が管理する鶴見川では、住民避難の目安となる避難判断水位に迫る洪水となり、8日未明には新横浜駅前にある鶴見川多目的遊水地に洪水が流入し、水害を未然に防止する活躍を見せました。一方、多摩川流域は下流部に降雨があったものの、大きな洪水とはなりませんでしたが、8日未明から正午にかけては、柳の大木を倒すような強い風が続きました。

柳は、人のいない時間帯に河川敷の真ん中で倒れたため、幸いにも被害を与えることはありませんでした。しかし、この件は多摩川を管理する私たちにとって、今後の河川管理のヒントとなりました。

多摩川にはたくさんの樹木があります。自治体が運営する河川公園内に植樹したものを除けば、そのほとんどが自然に生えて大きくなったものです。持ち主は結果的に我々河川管理者となります。

河原の樹木は生き物のねぐらや休息場所、そして人々の木陰や地域のシンボルになったりもします。今回の柳は、地域のシンボリックな存在であるため、倒木だからといってすぐに伐採・処分とはせず、自治体や地域の方々から倒木について情報収集を行い、慎重に対応しました。

しかし、一方で、樹木は洪水の時には水を流れにくくし、樹木の上流側では水位が上昇、最悪の場合は堤防へ悪影響を及ぼすことになります。堤防に食い込んでいる木は、風などの力が加わることにより堤防を弱体化させることもあります。

ここ10年ほど、本来、玉石河原の多摩川に樹木が増えていると感じている方もいるのではないのでしょうか。場所によっては河川敷に土砂が堆積し、そこに樹木（特に外来種）が生い茂るという樹林化が急速に進行しています。地区によっては治水上と河川環境上の課題となっていて、本来多摩川にないはずの外来種の樹木を取り除き昔の生態系に戻し、かつ治水上の効果も期待するといった社会実験的な取り組みを始める議論を行っています。

この外来種問題と似た構図に河原でのバーベキュー問題があります。下流部ではバーベキューによるゴミが河原を占拠し、地域の方々や河川利用者が迷惑しています。外来種のように伐採するということができず、地元自治体と有効な手立てを検討しています。こうした問題の解決には、多摩川をどういう姿にしていくのか、といったことを議論し合意を得ていく必要があると考えています。

最後になりますが、柳の大木は多摩川の上流の山梨県小菅村が狛江市に協力を申し出て、まな板等に生まれ変わるようになりました。台風によって上下流の交流が深まったのではと感じました。



## 財団からのお知らせ 助成研究募集のご案内

### 多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動助成の募集

財団法人とうきゅう環境浄化財団（会長 西本 定保）は、1975年（昭和50年）より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきています。その結果、これ迄に502件（学術研究302件、一般研究200件）の調査・試験研究のお手伝いをさせて頂きました。

2010年（平成22年）4月からの助成についても、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

#### 1. 応募資格者

下記研究対象テーマに掲げた調査や試験研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

#### 2. 助成研究対象テーマ

産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究  
排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究  
多摩川およびその流域における水の利用に関する調査および試験研究  
シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川及びその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与するもの。

#### 3. 応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出下さい。

「募集要項」「申請書」はホームページ上からダウンロードするか、200円切手同封の上、財団宛ご請求下さい。

<http://home.q07.itscom.net/tokyueenv/>

#### 4. 助成の決定

2010（平成22年）年3月に開催予定の当財団選考委員会で選考のうえ、理事会に諮って最終的に決定致します。

#### 5. 応募締切日 2010（平成22年）年1月15日（金）

#### 6. 応募にあたっての注意事項

ご応募にあたっては、当財団の定める「調査・試験研究助成に関する調査・試験研究の選定基準、助成の方法、調査・試験研究の実施方法、助成金の支払い方法ならびに調査・試験研究者の個人情報の保護の方法に関する規程」を必ずお読み下さい。

過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付けておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容のちがいがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。  
(次ページへ続く)



## 「羽田水門」

作者 山口 善弘 (やまぐち よしひろ)

1940年東京都生まれ。一級建築士。  
 そのかたわら、山や川の絵を描き続ける。  
 各地で個展を開催し、好評を博している。  
 国土交通省関東整備局京浜河川事務所発行の季刊誌「ひと・かわ・まち」(1999年VOL.4～2005年VOL.29)の表紙の絵を飾った。

## 7. 助成研究の種別と諸条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。 (財団のホームページで過去の研究事例をご参照下さい)	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
1件当たりの助成金総額の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ケ年	最長2ケ年
助成対象費目	(1) 器具備品費 原則対象外。ただし所属機関や個人で所有するものがなく、調査・試験研究や活動に必要な不可欠なものと選考委員会で認められたものはこの限りではない。 (2) 消耗品費 調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等。 (3) 旅費 調査や試験研究のための交通費、宿泊費等。 (4) 謝金 調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等。 (5) その他 器機・設備などの賃借料、通信費、その他。	
<p>尚、学術研究については、研究計画の全てが助成金によるものではないこと。旅費、謝金は、それぞれ助成金要望額の30%を上限の目安とすること、上限の目安を大幅に超える場合は、その理由を詳細に記した説明書を申請書に添付してご提出下さい。</p> <p>一般研究については、従来からの調査・試験研究に加えて、シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与すると思われるものも選考の対象といたしましたので、奮ってご応募下さい。</p>		

発行日 平成21年12月1日

編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団

〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14

(渋谷地下鉄ビル8F)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

ホームページ <http://home.q07.itscom.net/tokyuenv>

